

2024.01.07. 恵みの歴史 前編 Mac 牧師

主よ、ありがとうございます。一緒に祈りましょう。主よ、共に集えるこの時間を本当にありがとうございます。マック牧師を導いてくださったことをあなたに感謝します。あなたの御言葉へと、彼に話をさせ、何を教えるべきか指示してくださったことを。主よ、私たちが共に座れるこの時間を感謝します。ここにいるだけでなく、もっと重要なのは、主よ、あなたの御言葉を学び、受け取り、実践することです。私たちに語ってくださいますか？ 聖霊よ、導いて下さい。イエスの御名によって祈ります。アーメン。おはようございます。皆さん全員に祝福と平安が豊かに増し加わりますように。J.D.ファラグ牧師に代わって、カルバリーチャペル・カネオへの日曜日の朝の礼拝によろこそ。初めての来訪者の方は、特別に歓迎します。来て下さりありがとうございます。あなたがここカルバリーチャペル・カネオへで受けられる愛と交流、同時に御言葉で祝福されることを祈ります。皆さんに覚えていただきたいのは、次回の祈り会は、今週の火曜日です。ここ礼拝堂で、夜7時からです。御心なら、J.D.牧師が戻ります。その事を感謝します。彼の復帰を楽しみにしています。祈り会は少し再編成されました。前回行ったときは、とても啓発されました。私はその恩恵について話すのを止められなかったし、私たちが帰るとき、全員がまだ祈りの気分で、ただずっと祈りの気分でいました。何を祈るべきかをより具体的に理解すること、誰のために祈るのか、祈り続けること、祈りの大切さと力をあらためて思い知らされました。ですから、可能な方は、ぜひ来られるのをお勧めします。その時、御目にかかれるのを楽しみにしています日曜日の朝は、2つの礼拝があって、第一礼拝は、通常「聖書預言・アップデート」第二礼拝は、「説教」に専念します。しかし、今日は2部の特別題材の学びをします。その教えの前編では、皆さんを「使徒の働き 20章」にお招きします。22節から取り上げます。今朝の箇所の聖句朗読のため、可能な方はご起立下さい。続いて祈りの言葉を捧げます。繰り返します。「使徒の働き 20章」使徒パウロがここに記録されています。神の御言葉は語ります。

—使徒 20：22—

ご覧なさい。私は今、御霊に縛られてエルサレムに行きます。そこで私にどんなことが起こるのか、分かりません。

—使徒 20：23—

ただ、聖霊がどの町でも私に証しして言われるのは、鎖と苦しみが私を待っているということです。

—使徒 20：24—

けれども、私が自分の走るべき道のりを走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音を証しする任務を全うできるなら、自分のいのちは少しも惜しいとは思いません。

—使徒 20：25—

今、私には分かっています。御国を宣べ伝えてあなたがたの間を巡回した私の顔を、あなたがたはだれも二度と見ることがないでしょう。

—使徒 20：26—

ですから、今日この日、あなたがたに宣言します。私は、だれの血に対しても責任がありません。

—使徒 20：27—

私は神のご計画のすべてを、余すところなくあなたがたに知らせたからです。

祈って、神に祝福をお願いしましょう。

天のお父様主よ、今朝あなたの御前に参ります。どうか大変新しく、大変新鮮な方法で、私たちに会っ

てくださいますように。この学びを祝福ください。しかし私たちは皆、心を高められ、この学びの中で、あなたが掲げられますように。ですからこの時間をあなたに委ねます。あなたの御言葉を聞くため、私たちがここに來れるようにして下さり、心から感謝します。私たちはあなたを愛し、賛美します。聖霊の御力で、私たちの前を行き、教えて下さい。救世主イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。どうぞ着席ください。ありがとうございます。今朝の2部構成の学びのタイトルは、『恵みの歴史』です。私たちは、神の恵みのもとで生きることについてよく話しますし、そうすべきです。私たちは、神の恵みが聖書全体を通して記されている事言及してきました。しかし、神の恵みの福音は、非常に独特なものであることも理解する必要があります。それは使徒パウロに特別に与えられたもので、福音のメッセージ全体を要約するものです。これから取り組むことは、聖書に関する技術的な側面もあって、真理の御言葉をまっすぐに説き明かす（2テモテ 2:15 参照）ことがなぜ重要なのかを私たちに教えてくれます。それは、キリストの体内で問題や分裂を引き起こすべきではありません。ですからここでは、このようにエペソの長老への対応で、使徒パウロの彼らに対する愛は深かったはずで、想像できると思いますが、パウロは、聖典の解説をしながら、彼らと多くの時間を過ごしていました。彼は、その期間中、彼らと接することにつき、12年ほどのキャリアを積んでいました。で、今、彼は、エルサレムに向かいながら、もう二度と彼らに会えないかもしれません。ここにあるのは、言わば、別れのあいさつで、パウロは神の恵みの福音を宣べ伝えます。そして、これは、このすべてが何を意味するのかを指し示します。祈りのうちに私たちは、それが最終的に大変革をもたらしたことを知るでしょう。この真理は、ある種軽く見られ、ある意味包み隠されていて、神の恵みの完全性を表さない他のあらゆるものと、一緒くたにされています。私たちが生きているこの時代は、人間の歴史の中で他のどの時代とも異なっているからです。ですから、主の神聖な祝福と共に、私たちは、これらのことが真実かどうかを確かめるため聖書を調べていきます。このために、皆さんの恵みも頂けるようお願いします。皆さんの中には、これが大変初歩的なことに思える人もいるからです。でも最近、主は本当に私に導いて下さり、このことを知らない人たちがいることに気づかせてくださいました。人によっては、主のもとに來たばかりで、私自身、神をもっと知りたいと思うあまり、神をまったく知らない人がいることを忘れてしまうことがあります。ですから、皆さんの恵みをお願いします。幾人かには、これまで教えられてきたことに反するかもしれません。でも最終的に、私たちは神の御言葉自体が語ることを受け入れていきます。ではそうしましょう。神の息吹の御言葉に、私たちへ語りかけていただきましょう。まず、「福音」という言葉の意味を思い出すことから始めましょう。皆さんのほとんどは、すべてを知っているわけではありません。「福音」という言葉は、「良い知らせ」という意味です。それは非常に初歩的です。私は完全に理解しています。でも、私は、神の御言葉のご計画全体を見て、どこに「福音」があるのかが分かると、より大きなインパクトを与えたいと思います。聖書の中で最も偉大な知らせは、なんといっても『イエス』です。同意しますよね？（会衆：はい！）イエスは福音で満ちあふれている人です。

イエスが福音の福音です。でしょ？ でも「福音」という言葉には、技術的な側面もあります。歴史上、どの時代にどんな「良い知らせ」が伝えられていたのか、ちなみに、この先も同様ですよ。そのすべてが、そのひとつひとつが、キリストの十字架を指し示します。しかし、私たちが聖句を本当に吟味するとき、神がしておられることは、福音に隠されていたことを明らかにしておられます。そしてそれが、聖書の巻が非常に鮮明にします。こんなことができるのは神だけです。私にとって、神の御言葉であるこの聖書がいかにか他の文書、宇宙の他の書物と違うかを示し続けています。ですから、まずこのことを

強調させてください。「福音」という言葉を聖書の中のどのような文脈で聞いても、私たちの心は自動的にイエスに向かいます。それは良い事です。皆さん、聞いてますか？ 私が言ったことを聞いたでしょ。どのような文脈でもこの言葉を聞いて、あなたの心がイエスにまっすぐ向かうなら、良い事です。そこに問題はなりません。でも、そこで立ち止まると、イエス・キリストの福音の意義から遠ざかってしまいます。事実、それはイエスを指している聖書の巻の重要性を軽減することになります。私たちがこのことをはっきりと理解できるよう祈ります。では、今から、「福音」という言葉について論点を整理します。私たちのほとんどは、聖書に収められている4つの福音書を知っていますね？ 私たちはそれを歌います。♪マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ♪ でしょ？ その点については問題ないですか？

OK。福音書はそれぞれ、イエス・キリストの神性と人性の異なる側面を示しながら、イエス・キリストについての良い知らせを含んでいます。それに同意しますか？ OK。では、私たちが同意するなら、こうお聞きします。マタイの福音書は、ヨハネの福音書とは別の福音書なのか？ いいえ、そうではありません。しかし、マタイの福音書は、イエスが誰であられたのか、誰なのか、そしてこれから来られる方なのかについて、別の側面を示していますか？ はい！ よろしい、教会よ。それが最初のハードルです。私たちはつまづかなかった。私たちがこれら全てに踏み込んでいく際、このことを忘れてはならないからです。同じコンセプトが「良い知らせ」にも大きな役割を果たしています。先に進む前にここで、このことも伝えておいたほうがいいでしょう。まず、あなたが教会携挙を信じていないのなら、これから取り組むことは、最終的にほとんど意味をなさないでしょう。次に、あなたが、教会がイスラエルに置き換わったと信じているなら（置換神学）、これから取り組むことは、意味をなさないでしょう。

しかしながら、聖書の中で 他にも福音という言葉や 良い知らせという言葉に耳にした時、その裏に相違や別の意味はないと信じるなら、聖書の中に区別があると思わないなら、あなたが神の御言葉が語られるのを妨げないなら、これから取り組むことは意味をなします。ついてきていますか？ 神を讃えます。私は、神学的に些細なことを論議するつもりではないのをご理解ください。そうではなく、この理解で得られるものは大きいのです。悲しいのは、私たちの多くが、聖書の変遷を意識することなく聖書を読みがちであることです。私たちはそれを見ていません。白黒つけすぎです。たとえ聖典がそれを語っていても、私たちはそのことを軽く受け流す。そして自分自身に害を与えています。最後に、このことも心に留めておいて下さい。神の御言葉は、決して過ぎ去ることはありません。なぜそれを本当に、本当に、本当に、本当に、理解する必要があるのか？ 千年王国について考えてください。聞いていますか？ 神の御言葉は、決して過ぎ去ることはありません。だから、聖書を読むときは自分のためになることをして下さい。書いてあることがよく意味をなさないなら、それを千年王国に置いてみて下さい。そうすれば分かります。おお、何という事。こうなります「なんと完璧に理に適っているの！！」

無償だし！！ で、「神の恵みの福音とは何か？」そう、神の恵みの福音は、人類歴史全体、そして永遠にも及ぶと私は主張できます。私はこれを主張できます。神の恵みは、神の子を通して全人類が神と和解することを保証します。それはすべて、世の基ができる前から計画されていたことです。これこそが神の恵みで、驚くべき恵みなのです。クリスチャンだと公言している人なら、私が今言ったような言い方に問題があるとは思いません。広い意味で、誰も反論できないと思います。「創世記」に、女の種から救い主が生まれると書かれています。人間の墮落以来、人類の希望は、神の子である、人の子の到来を待ち望んでいます。良い知らせです。これが神の恵みの良い知らせです。しかし、この真理はアダムに提供されたのか。アダムは知っていたのか。この真理は、キリストの十字架以前の人々へ、この恵みの教会時代の私

たちと同じような生き方を与えたのか。そうだったのか。答え：違う。そうではなかった。だからといって、神の恵みの良い知らせが取り除かれるわけではありません。事実、神の御言葉は、私たちに神の恵みを示します。神をより一層讃えるものです。では、この恵みを時間の経過とともに見ていきましょう。アダムからノアの時代、神の義が語られ、宣べ伝えられました。事実、「第二ペテロの手紙 2 章 5 節」に、ノアは義を宣べ伝えたことと記されています。でしょ？ 大方の推定によると、箱舟の建造には 50 年から 70 年かかったと言われています。ノアは、神が、「わたしは人と争わないよう人の齢は百二十年にしよう。」（創世記 6:3 参照）と仰って以来、義を宣べ伝えることもできたでしょう。

その時に始めることもできたはずですが、しかし、私たちが聖書で分かるのは、ノアは、神を拒絶する世に向かって宣べ伝えていたことが分かります。彼らには、真の生ける神への信仰がないのがはっきり分かります。そのため彼らは、全て滅ぼされました。ノアの家族 8 人以外。

では、これを考えて下さい。アダムとノアの間には、ヘブル人はまったくいません。ついてきていますか？ 義とされるには、当時、信仰だけによるものでした。これはやはり神の恵みです。皆さん、それが分かりますか？ 先に進みましょう。ノアの息子たちから、地のすべての人口が再び増えていったと語られています。ノアに信仰があったと既に分かりますね。ですから、彼が洪水の後、死ぬまで神の義について語ったと考えるのが当然でしょう。このことを覚えておいて下さい。ノアは洪水から 350 年後に死んだのです。これは非常に重要です。理由は、与えられた使命のひとつは、彼らが地を満たし、人口を増やし、地に広がることでした。地に広がること。これがあなたへの命令です。そして、洪水からわずか 100 年ほどしか経っていない内に、バベルの塔を建てたのです。これが分かりますか？ それは、神に対する直接的な反逆行為でした。ここから言語が混乱し、国民はさらに分断されました。（創世記 11 章）真の生ける神に対し真の畏れを持たない集団ができました。そして、こうも言います。こんにちのあらゆる偽りの宗教は、バベルにまで遡り繋がります。全部が。しかし、私が指摘したいのは、ノアとその息子たち全員がこれを目撃すること。そのことは考えますか？ ノアはそれを経験したのです。これを経験した。でしょ？ それが最高の言及です。彼は、自分の子孫の墮落を目の当たりにすることになります。そして、神の恵みは決して人間から離れません。人間が、常に神の恵みを拒絶しようとしてきました。（日の下には）新しいものは一つもない。（伝道者 1:9）

私たちがここで見ているこの人間の墮落ぶりを見たいと思います。100 年後にバベルの塔？これが聖霊不在の状態です。ついてきていますか？ これは野放しにされた罪です。そして、信じようと信じまいと、このようなそのまんまの世がより邪悪な方法で、また生じます。特に、患難時代に。

これがイエスが、「ノアの日と同じように」（マタイ 24:37）と仰った理由です。

引き止める者が、取り除かれるからです。（教会携拳）で、教えに戻って、もう一度心に留めておいてほしいのは、「ヘブル人はいない。」先に進みましょう。いよいよアブラムの登場で、彼はバベルの塔から約 250 年後に生まれました。全世界が真の生ける神を拒んだのは、この頃です。そこで神は、その恵みの中で何をなさるのか？ 神は、ウル出身のアブラムを召し、ハランから召されました。で、ハランとはどこか？ おお、偶然にも異教徒の町の真ん中にあります。すべてが異教です。全てが。全土が完全な異邦人、ヘブル人はいません。ヘブル民族が誕生したとき、その民族が異邦人から生まれたことはほとんどの人がご存知でしょう。頭の片隅に置いておいて下さい。皆さん、これが話の向かう先です。

しかし、このことを理解することは非常に重要です。ハランという地についてもうひとつ、なぜ神は、アブラムをハランから召されるのか。多くのヘブル語学者は、この名前が 十字路を意味することに同意し

ているからです。考えてみて下さい。決断の地。あるいは、十字架への道だとも言えます。私たちは、神の御言葉を愛さねばなりません。主が私たちのためになさることを見て下さい。そしてまた、これにお付き合い下さって、ありがとうございます。しかし、この描写が必要です。神の御名に栄光が帰されるために。これが、主がその恵みを罪深い人間へお与えになるご方法なのです。アブラムに戻ります。「創世記 15 章」5 節から 7 節に記されています。神の御言葉が語ります。

—創世記 15：5—

そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」

—創世記 15：6—

アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

—創世記 15：7—

主は彼に言われた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルからあなたを導き出した主である。」

この節でいくつか触れておきたいことがあります。まず、心すべきは、これはアブラムとの契約であること。聞いていますか？ 私たちはこのことを認識する必要があります。理由は、アブラムは何か？ 異邦人です。神は今この瞬間、異邦人と破ることのできない契約を結んでおられます。いずれにせよ地上にいるのは異邦人です。で、6 節で、アブラムが主を信じたことがわかります。それが彼が義と認められたのです。これがわかりますか？ ではこう言わせてください。再度、信仰のみ、神に信仰をおくことで義人と呼ばれる異教徒がいる。ついてきていますか？ また留意ください。神は、彼をウルから連れ出したと仰います。しかし、彼がハランから召されたのを私たちは知っています。しかし、ウルが 炎を意味すると理解する時、少なくとも私にとっては、それはより大きなインパクトを与えます。神がアブラムに念押しされているような感じだから。「わたしはあなたを地獄から連れ出した。」でしょ？

イエス・キリストを全て指し示す神の恵みの約束に、あなたを導くために。でもアブラムを取り上げるにあたって、ここでの大きなポイントは：「神はその恵みの中で、アブラムを通して人々を信仰へと導かれる。」この世は破滅的でした。神はこのようにご紹介されたのです。これが、絶え間なく続く神の恵みです。思い出してください。バベルの反逆は主を拒みました。しかし、神は。人間に恵みを与え続けておられます。このことに関しては、使徒パウロが、これから見る通り、このこと、そのすべての意義に光を当てます。この瞬間については、「ローマ人への手紙 4 章」8～11 節に記されています。8 節で、使徒パウロはダビデ王の「詩篇」を引用していて、彼はこの先、残りの部分を結びつけます。御言葉が語ります。

—ローマ 4：8—

幸いなことよ、主が罪をお認めにならない人。

ダビデ王の言葉、詩篇からです。使徒パウロが続けます。

—ローマ 4：9—

それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラムには、その信仰が義と認められた」と言っていますが、

—ローマ 4：10—

どのようにして、その信仰が義と認められたのでしょうか。割礼を受けてからですか。割礼を受けていないときですか。割礼を受けてからではなく、割礼を受けていないときです。

#### —ローマ 4：11—

**彼は、割礼を受けていないときに信仰によって義と認められたことの証印として、割礼というしるしを受けたのです。それは、彼が、割礼を受けないままで信じるすべての人の父となり、彼らも義と認められるためであり、**

ここで、私たちへの理解の鍵となるのは、信仰と信念を持つすべての無割礼者に義が与えられるということです。そのすべてはアブラムから生じました。事実、ご存知の方も多いでしょう。彼が75歳のとき、ハランの地から、ハランから召された時、それから約15年後だったと思いますけど、彼は義と認められました。彼は99歳で、割礼を受けました。考えてみて下さい。これが分かりますか？ そう願います。そうでないと、この後繋がりませんよ。割礼を受けて、名前が変われば、別の契約が成立するからです。もう一つなされたのは、今や、信仰以外の何かが必要だったからです。彼の名前はアブラハムに変えられ、彼は、割礼を受けました。それが証印で、他の何かが必要でした。これは、神の種が増し加えられると彼に約束された契約で、アブラムを通して、イサクによって直接もたらされ、そしてもちろんさらにその先の子孫にもたらされます。詳細は省きますが、結論はこういうことです。

さあ、アブラムは異邦人の父で、アブラハムは、ヘブル人の父です。同じ人物です。一人の人のもと、2つの契約です。神の恵みが分かりますか？ その土台で続けましょう。神は信仰だけで異邦人を覆うために、世俗的な人物を用いられました。それから神は、彼らを「独特な民」と呼ばれました。そうすれば、この「独特の民」が異邦人の国々を引きつけ、彼らのうちに真の生ける神を見るようになります。何が起きているのか分かりますか？ これが無割礼の者への良い知らせです。そして、使徒パウロが「ガラテヤ人への手紙2章」に記している、割礼を受けている者へも。これから読む箇所は、彼は使徒ペテロと最後に話をした14年後、神の恵みによりガラテヤの信徒たちにこう説明します。

「神の恵みによって、ユダヤ人も異邦人も皆、信仰によって受け入れられたことを、福音を通して異邦人に示された。」しかし、私たちがこれを読むと聖霊によってその言葉に耳を傾けてください。7節と8節に注目してください。神の御言葉が語ります。

#### —ガラテヤ 2：7—

**それどころか、ペテロが割礼を受けている者への福音を委ねられているように、私は割礼を受けていない者への福音を委ねられていることを理解してくれました。**

#### —ガラテヤ 2：8—

**ペテロに働きかけて、割礼を受けている者への使徒とされた方が、私にも働きかけて、異邦人への使徒としてくださったからでした。**

割礼を受けていない人のための福音？ 割礼を受けている人のための福音？ ここで何を伝えようとしているのか？ これは別の福音なのか？ 「福音」という言葉について、私が何を言いたいかわかりますか？ これが、アブラムとアブラハムまでずっと遡れ、と私達に語りかけ、私達を突き動かしているのです。これが私たちに示しているものです。そしてその中で私たちは、神が初めからいかに恵み深いお方であるかと、神のご計画を分かるはずです。これは異邦人に向けられた良い知らせで、国民となる民に与えられた良い知らせです。このすべてが、私達をイエスに指し示すためです。神は、神聖な恵みの中ですべての人にキリストを指し示すため人間に働きかけておられます。こんにち教会としての私たちには、自由に使える（神の）ご計画の全貌があります。そのことに感謝すべきです。しかし、アブラムとアブラハムに基づく信仰の確信に関連する記述には、私たちが認識せねばならない大きな違いがあります。違

いがあります。なぜなら、起こったのは、その民がイスラエル民族となったとき、律法が入り込んだことです。それで信仰は、割礼の下で、行いとなりました。もう結び付けられましたか？ 私たちは、律法が何を意図しているのか話しましたね。律法の目的の一つは、イスラエル民族が、他の国々から真に切り離されているのを示すことでした。繰り返しますが、他の国々が自分たちに与えられた祝福に目を向け、それを見ることを期待し、彼らもまた真の生ける神を礼拝するように、神はこの民ユダヤ人に啓示をされました。でも、繰り返しですが、彼らは誰も律法を守ることが出来ず、信仰を実演し、罪のためにいけにえをささげねばなりませんでした。この全てがあっても、すべては神の恵みの下にあります。全部そうです。でもそのどれもが、私たちが生きている恵みの種類とは比較になりません。どうです？ 私たちが今生きている恵みには終わりが来ます。そうなります。言っておきます。人々は再び信仰を示さねばなりません。この先、考えられないような状況下で、それを実証せねばなりません。しかし、私が話しているこの違いに取り組むにあたり、「ローマ人への手紙 3 章 30 節から 31 節」に、この言葉が記されています。神の御言葉が語ります。

—ローマ 3:30—

**神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない者も信仰によって義と認めてくださるのです。**

—ローマ 3:31—

**それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。**

ここでのポイントは、「割礼を受けた者」に付随する「信仰によって」というのは、「律法の下にある」ことに付随する「行い」を表している、と示すことです。あなたは何かをせねばならなかった。しかし「割礼を受けていない者」に付随する「信仰によって」とは、誰かを信じること、つまり真の生ける神を信じることで、信仰を持つだけです。そして、そのような値しない恵みを受け入れることによって、恵みを与えて下さる方のために生きる願望を人の心に与えるのです。そうすることで、律法が確立されます。繰り返しますが、アブラハムに与えられた信仰に基づく恵みの窓は、短命に終わりました。聞いていますか？ アブラムからアブラハムへの期間、信仰に基づく恵みのその窓は、短命でした。こんにち、私たちは、信仰に基づくその恵みの長期間を過ごしてきました。でもまた、それは終わります。話の向かう先が分かりますか？ アブラハムについて、聖書全体を通して書かれていることなので、私たちはそれを期待すべきです。また、すべての国々が彼によって祝福されるとも書かれています。その視点から見ると私たちはその方法が分りますか？ そう願います。なぜなら、もっと良い知らせがあるからです。私たちには今、「神の御国の福音」と呼ぶものがあります。アダムが創造されたとき、地の上に置かれたことは知っています。つまり、地上の王権はアダムから始まったと言えます。それは問題ありません。また私たちは、アブラハムが、自分から王が生まれると言われたことも知っています。「申命記」に、神がイスラエル民族のため王を選ばれることが記されています。しかし、私が聖書の中で神の御国を初めて目にしたのは、ダビデ王にまつわります。もちろん、これはすべて神のご計画の一部です。だから再度、聖霊によって、主が、どう私たちをすべての真理へと導いてくださるかに気づいてください。

神の御国とは最も力強い宣言で、それが私たち、そして全ての人の注意を引き、それがどこにあったのかを私たちに指し示します。「第一歴代誌 28 章 5 節」にそのことが記されています。神の御言葉が語ります。

## —I 歴代誌 28：5—

**主は私に多くの子を授けてくださったが、私のすべての子どもの中から、私の子ソロモンを選び、イスラエルを治める主の王座に就けてくださった。**

ここから先、旧約聖書の預言者たちを通し、王の王の救世主の到来を含め、神の御国は何度も何度も示されました。神は恵みにおいて、具体的な預言により、このすべてを絞り込み続けられます。具体的な預言的出来事や、特定の場所で、それらすべては、ある目的を中心へ据えるためです。皆をイエスに導くため。このすべてがどう整っていくのかを期待します。なぜなら、私たちは、「福音」という言葉のために多くの論争のある箇所に入るからです。それは「御国の良い知らせ」「御国の福音」を扱うこと。聖句に進む前に、いくつかの質問を自問する必要があります。いや、おそらく基本的な質問をひとつ。

「御国の福音とは何か？」では「福音」という言葉の意味を思い出しましょう。良い知らせですね。いくつかの異なる箇所で見られます。何度か見たことがありますね。繰り返しますが、「御国の福音」は、神が人間に対して持っておられた贖罪計画に関連し、全人類を含むという事実を論議することができます。でも、そんな大雑把な言い方に留めると、神の栄光と神の御言葉が、いかに神聖に構築されたものであるかが失われます。神の御国とは、ダビデによって語られ、預言者たちによって預言され、先駆者バプテスマのヨハネによって宣言された王国のことで、それはキリストのミニストリーの要の石でした。

私たちの図表を見ると、バプテスマのヨハネがこう説いています。「神の国は近づいた。」（マタイ 3：2 参照）他の預言者たちが語る王国と同じ王国で、イエスが説かれた文字通りの王国です。イエスが王国全体なので。「マルコの福音書 1 章」14 節から 15 節にこのことが記されています。神の御言葉が語ります。

## —マルコ 1：14—

**ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の（御国の）福音を宣べ伝えて言われた。**

## —マルコ 1：15—

**「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」**

イエスは、御国の福音を説いておられます。しかし、「マルコの福音書 1 章 1 節」にはこうあります。神の御言葉はこう語ります。

## —マルコ 1：1—

**神の子、イエス・キリストの福音のはじめ。**

では、私たちは、、、何が伝えられているのか？ ええ、私にとっては、それは明確に語っているし、それ自体説明もしています。御国の福音は、イエスが宣言されるイエス・キリストの福音の始まりだったから。イエス・キリストの福音には、御国についての良い知らせが含まれています。でも、考えてみて下さい。イエスが最初に神の御国について説かれたとき、ご自分の死、埋葬、復活についてを説かれたのではありません。皆さん、これが理解できますか？ 実際、イエスがそのことを話しても、彼らは理解できませんでした。その後に至る弟子たちでさえ。それは聖書全体を通してです。しかし、どういうわけか、私たちはこれらすべてを融合させています。いずれも救い主のメッセージを奪うものではありません。これは、イスラエルの民のほとんどが盲目で、そして今も盲目である預言の成就でした。

そう、もちろん神の人イエスにとっては、どれも驚きではありません。御国は、ユダヤ人に拒絶されました。その後、イエスは弟子たちをご自分の教会のために準備し始められました。その準備の中で、私たちはこれらすべての御国のたとえ話を見始めるのです。「天の御国は次のようにたとえられます。」



こう表現し、次のように説明されます。「御国は延期になったが、その延期中に何が行われるのか？」それが物語っていることです。ですから、一旦キリストが十字架にかけられ、復活されたら、イエスは、使徒たちに聖書を開かれ、彼らはこれから、イエスと、イエスの十字架による死、死からの復活を宣べ伝え始め、ユダヤ人達に生ける神の子イエス・キリストの名によって悔い改め、バプテスマを受けるよう語ります。さらにイエスは、ユダヤ人の正当な王で、御父の右に座しておられると。私たちは「使徒の働き」で、教会が誕生して間もなくのこの展開が分かります。これはまさに神の恵みの良い知らせです。初代教会がユダヤ人であったことを忘れないようにしましょう。実際、使徒たちはユダヤから始めるように言われます。なぜか？ 再度ですが、神の御国は、このイエス・キリストの啓示によって宣べ伝えられていたからです。そして使徒ペテロは、復活したキリストであるイエスを救いのために宣べ伝えることで、ユダヤ人に神の御国を再び提供するために、神に召され、起こされたのです。これはイスラエルの民に再びもたらされた良い知らせです。彼らがすべきことは、悔い改めてキリストの信者に改宗することでした。でも、神の御国の到来を告げるこの最後の申し出を、彼らは拒み、人間に提供された最も驚くべき恵みを拒絶しました。そして、この真実を完全に理解するため、「使徒の働き 3章」に戻ります。スクリーンにも映し出します。17節から取り上げます。さて、これは足の萎えた男の話、よく知られた話です。門の前で使徒ペテロに癒され、霊的指導者たちは、どうやって、こんなことが起こったのかと不思議がっています。使徒ペテロはこの状況に対処し、自分たちの力は、彼らが突き刺したイエスによってもたらされたものだと言います。神の御言葉が語ります。ペテロが話しています。

—使徒 3：17—

さて兄弟たち。あなたがたが、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをしたことを、私は知っています。

(あなたがたは無知だから殺した。)わかりました。

—使徒 3：18—

しかし神は、すべての預言者たちの口を通してあらかじめ告げておられたこと、すなわち、キリストの受難をこのように実現されました。

—使徒 3：19—

ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪は(神の御前で)ぬぐい去られます。

—使徒 3：20—

そうして、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにあらかじめキリストとして定められていたイエスを、主は遣わしてください。

皆さん、わかりましたか？

—使徒 3：21—

このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。

「それは、あなたがたに先に宣べ伝えられたイエスを遣わすためである。」(20節の直訳)

悔い改め、改宗しなさい。聖書で予告されていたように、御国が確立されるため、イエスを救世主として受け入れなさい。そして使徒ペテロは、その理由をこう語ります。なぜ彼らか？なぜ？それが25節26節に記されています。神の御言葉が語ります。

—使徒 3：25—

あなたがたは預言者たちの子であり、契約の子です。この契約は、神がアブラハムに『あなたの子孫によって、地のすべての民族は祝福を受けるようになる』と言って、あなたがたの父祖たちと結ばれたものです。

では、これを聞いて下さい。

—使徒 3：26—

**神はまず、そのしもべを立てて、あなたがたに遣わされました。その方が、あなたがた一人ひとりを悪から立ち返らせて、祝福にあずからせてくださるのです。」**

まずはあなたがたから。イエスを受け入れなさい。神の御国が始まるでしょう聖書で予告されているように、私たちの国によって、全ての国が祝福されます。ここでユダヤ人に差し出され、提示された恵みが分かりますか？ これが、神の恵みの福音を見ると、私たちは神の恵みの歴史全体を考察し、それがどのようなものであるかを見なければならぬ理由です。素晴らしいからです。私たちの神は慈悲深く、長く苦しんでおられます。神の御言葉が語る通りです。考えてみて下さい。これは二度目の提案ですよ。

証拠：あなたがたはその人が癒されるのを見た。その力はどこから来たのか？ あなたがたが突き刺したキリストです。でもあなたがたは無知でそれをした。これを見てくれ！それはヒップ・バージョンです。わかります？ 私のポイントは分かりましたよね？ イエスを受け入れなさい。これは恵みです。私たちがそれを理解するのを望みます。なぜなら、恵みに対して私たちが当時の指導者たちのような対応をしないことを祈ります。なぜなら、これが彼らの対応だったから。それが「使徒の働き 4章 18節」に記されています。神の御言葉が語ります。

—使徒 4：18—

**そこで、彼らは二人を呼んで、イエスの名によって語ることも教えることも、いっさいしてはならないと命じた。**

これだけのことをやって、まだ拒絶。これが最後の拒絶で、すでに予告されていた神の恵みの福音に関する他のすべてを始動させます。これが積み上げられていきます。私たちは、彼らが当時何を見たかという視点から調べます。すべてがイエスを指し示しています。それは神がなさった大変な恵みです。考えてみて下さい。真の生ける神が誰であるかを、すべての人に明らかにしています。だから狭き道なのです。だからといって何か制限的なことを意味しているのではありません。イエスを指し示しているのです。なぜなら、そこにある他のすべての偽りの宗教は、広き門だからです。私たちの神がどのように私たちのためにして下さるか、分かりますか？ 神の御霊の導きで、私たちを歩ませ、間違いのないように。私たちが聖書を調べるなら。第二礼拝でこの話を続けるにあたり、使徒ペテロのユダヤ人に対するメッセージに、もうひとつ注意すべきことがあります。それというのは、ヤコブの苦難の時（患難時代）に向かっているのです。彼らは再び信仰を証明せねばなりません。全世界と同様に。私たちが生きているのは恵みのもとですが、彼らにはないからです。考えてみて下さい。ですから私たちは、神の恵みが本当に溢れる時代にいる事を知り、感謝しなければなりません。そのことに、私たちはどう答えるのですか？ 神の恵みの福音にどう答えますか？ どうあるべきかは、第二礼拝でわかると思います。ご起立ください。祈りましょう。

私たちの愛する天のお父様、あなたの真理の御言葉に感謝します。主よ、あなたの御言葉の中で、また御言葉を通して、あなたが栄光を受け、栄光を受け続けてくださいますように。イエスよ、あなたが全てで

す。あなたの御言葉を調べ、それがどう構成されているかが分かると、私たちはあなたに畏敬の念を抱きます。あなたが私たち教会に与えてくださった恵みに。主よ、私たちができる限り最善に答えられますように。私たちの人生をかけて、あなたを讃え、この恵みにこころから感謝します。そして喜んで、人々に分かち合うこと。どうか私たちにその大胆さを与え、あなたの聖霊の御力によって私たちに語り続けてください。私たちは今、永遠にあなたに感謝します。救世主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

-----  
メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7